

焦り作業は事故のもと！
本田準備は余裕をもって
行いましょう。



1. 育苗期後半の管理

① 温度

- ・日照が多い日は、ハウス内の温度が上昇します。苗ヤケ、徒長に注意しましょう。
- ・硬化期後半からは夜間もハウスサイドを開放し外気にならしましょう。
- ※ただし、低温時は被覆するなどして8℃以下にならないようにしましょう。

〔参考〕硬化期の温度管理めやす 新発田地域の気温平年値

管理めやす	温度(℃)		気温平年値(℃)					
			4月6半旬		5月1半旬		5月2半旬	
	昼間	夜間	最高	最低	最高	最低	最高	最低
硬化期	15℃~20℃	10℃以上	19.1℃	7℃	20.2℃	9.2℃	21.1℃	10℃

※観測地:新発田下羽津

② 水管理

- ・かん水は一日に1~2回を目安に行いましょう。※苗を冷やすので夕方のかん水は避けましょう。
- ・一度葉が萎凋すると以降葉が巻きやすくなります。箱周辺の乾燥に注意して過乾燥を避けましょう。(土が乾いても夕方葉先に水滴が一斉につく場合は健全です)

③ 移植前追肥

- ・苗の老化防止、移植後の活着促進のため、『田植え4~5日前に弁当肥を施用』しましょう。

資材名	規格	使用方法	使用時期	1箱当り散布量		100箱当り散布量		希釈
				液量	水量	液量	水量	
ケルパック 66 ミニ	120 ml	灌注	播種時又は緑化期	0.2 ml	200 ml	20 ml	20ℓ	1000 倍
アミグロー	1ℓ	灌注	緑化期~硬化期	1 ml	500 ml	100 ml	50ℓ	500 倍
		プール育苗	入水時	1ℓで約 100 枚分				
くみあい液肥 2号	6 kg	灌注	田植え 4~5 日前	10~15 ml	500~750 ml	1~1.5ℓ	50~75ℓ	50 倍
べんとう肥	5 kg	粒散布		15~20 g	-	1.5~2 kg	-	-

※くみあい液肥 2号、べんとう肥散布後は葉ヤケ防止のため速やかに散水しましょう。

☆ おすすめ資材は最寄りのほっとコーナーで ☆

2. 移植・移植後の水管理

① 移植時期

- ・早すぎる出穂を避けるため、『移植時期は5月10日以降』としましょう。
- ・移植作業は『温かく天候が安定した日』に行いましょう。

稚苗の活着温度	
活着限界温度	最適温度
12～13℃	25℃以上

※苗の活着限界温度は平均気温 13℃以上、不良苗だと 14℃～15℃以上が必要！
気温が低い日や風の強い日の移植は初期生育停滞の原因になります！

② 植付本数・栽植密度・植付深

- ・1株苗数は3～4本としましょう。
(植付本数が多いと過繁茂になり、細莖化による倒伏や品質低下を招きます。)
- ・栽植密度はコシヒカリ 50～60株/坪、早生品種で60株/坪を目安として過繁茂や過剰着粒による品質低下を避けましょう。
- ・植付深は2～3cmとします。深植えは下位分げつ抑制、浅植えは欠株や薬害を招く恐れがあります。

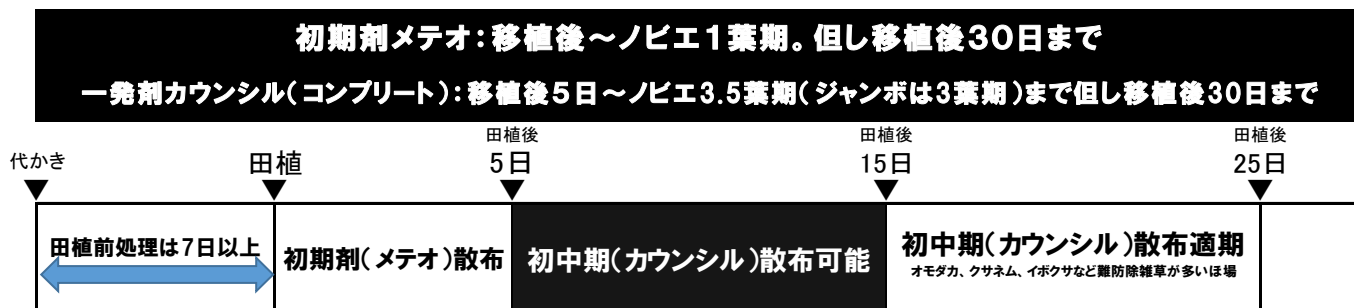
③ 移植後の水管理

- ・活着するまで(新根が3～5本発生するまでの7～10日間)3～4cmの水深で保温的管理としましょう。
- ・活着後は2～3cmのやや浅水としましょう。昼夜の水温の寒暖差が分げつ発生を促します。
- ・水を更新する場合は早朝に取水し日中は止水として水温上昇を図りましょう。

3. 除草剤散布の注意点

- ・代かきから田植までの期間をなるべく短く(2日～3日)しましょう。
- ・除草剤散布時はやや深水とし7日程度水の移動を避けましょう。
- ・初期剤は田植後散布を基本としますが、やむをえず田植前に使用する場合は(ソルネット、メテオ等)必ず7日以上前としてください。
- ・1発剤のみの場合は、使用基準を守り、できるだけ早く(田植後7日～10日)散布しましょう。
※難防除雑草は発芽後の散布では効果が劣ることがあります。
※雑草の多い圃場は初期剤+1発剤の体系で！

体系処理の例



地域への配慮、農道の美化・農作業事故ゼロへ

～農業機械の一般道走行中の事故が相次いでいます～

- ◎道路へ出る前に泥を落とす! 落ちた泥は片づける!
- ◎農業機械のキャリアカー等での移動は、運搬時及び積み下ろし時に注意!